

収益確保に苦慮、足踏み状態続く

12月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

一部業種においては需要や売上が増加するなど、明るい兆しが見られるも、年末需要の伸び悩みや原材料価格の上昇等により、収益面では依然苦戦を強いられている。また、人手不足状態が長期化する一方、後継者難により事業の継続が困難な企業が見受けられるなど、先行き不安の中で景況感は足踏み状態が続いている。

製造業	食料品		パンはクリスマス需要が年々減少傾向にある。菓子は横ばい状態で推移する一方、餅菓子等の注文が増加傾向にある。製麺は生麺の流通量が増加傾向にある反面、乾麺は消費者離れが見受けられる。また、調理麺は大手企業やコンビニにおける売上が好調となる一方で、中小企業は市場の縮小により苦戦している。
	繊維・同製品		桐生織物は婦人服地が横ばい状態を維持している一方、輸出向けでは苦戦が続いている。繊維製品は全体としては前年並みで推移するも、今冬の寒さの影響等で追加生産の依頼が増加傾向にある。レースは東南アジアにおける繊維産業の発展で、廃業増加が不安視されている。
	窯業・土石製品		生コンは前橋や高崎地区の伸び悩みで全体的に出荷量が減少傾向にある。コンクリート製品は公共事業の大型案件における工期の遅れで仕事量が伸び悩む中、発注時期の平準化による今後の仕事量増加に期待。砕石は東毛地域等において、公共工事の縮小化や民間工事の減少等で、景況感が落ち込んでいる。
	機械・金属		食品関係が依然好調に推移する一方、電機関係は年末の特需も見られず、先行き不安が高まっている。SUBARU関連では、11月に検査員への研修実施で生産ラインが一時停止した反動で、稼働率が上昇している。鍍金は一部で景況感に明るさが見られるも、取引先からのコストダウン要請等に苦慮している。
	その他の製造業		木材は良好な荷動きとなる一方、原料不足に伴う仕入価格の高騰で厳しい状況が続いている。印刷は売上が増加傾向にあるも、企業間格差は拡大、年末の繁忙感も乏しい状況。紙加工品は原紙の値上げによる原材料価格の上昇に伴い、各社とも製品価格への転嫁に向け動き始めている。
非製造業	卸売業		高崎卸は好条件で採用活動を行うも、人材確保が困難な状況。前橋卸は原材料価格の高騰や人手不足に伴う人件費等の経費負担増加に苦慮している。農産物卸は年末にかけて総じて品薄状態となり、高値相場で推移している。水産物卸はイカやイクラ等の価格高騰により、売上が落ち込んでいる。
	小売業		家電小売はテレビの買い替え需要の高まりで4Kテレビの需要が増加している。燃料小売は原油価格の値上がりによる末端価格の上昇で、売上が増加している。生花小売はお歳暮等の物日が盛り上がりを欠き、松や千両等の年末商材の需要も減少している。商店街は各地で年末商戦となるも、寒さで客足が伸び悩んでいる。
	サービス業		温泉旅館は忘年会需要が落ち込む一方、外国人観光客が増加傾向にあり、全体としてはほぼ前年並みで推移。渋川市域における不動産取引は、住宅需要が増加傾向にあるも、宅地造成が進まず土地の確保に苦慮している。また、空き家対策における「空き家バンク」の活用が期待されている。
	建設業		建設工事は人手不足や資材価格の上昇が懸念事項となっている。電気工事は依然として若年層の技術者不足状態が続く一方、廃業や後継者不在による組合脱退も見受けられる。塗装工事は県内における大型物件の工事が増加するも、県外業者への発注が多く、収益確保に結び付いていない状況。
	運輸業		燃料の値上がり傾向による燃料サーチャージの再導入や、運転手不足で車両の手配に苦慮する場面が見受けられる。野菜関係は10月の台風の影響で露地野菜が不作となり、輸送量は減少傾向にある。小口配送は家電関係のチャーター輸送や、建材関係の遠方輸送の依頼が増加し、売上・件数ともに好調に推移している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 112.4(前月比▲2.6%)「県統計課・11月」
- 住宅着工戸数 1,125戸(前年同月比▲9.6%)「県建築住宅課・11月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.35倍・有効1.61倍「群馬労働局・11月」
 - 大型小売店販売額 204億円(前年同月比+1.4%)「経済産業省・11月」
 - 消費者物価指数(全国) 100.9(前年同月比+0.6%)「総務省統計局・11月」
- 〈鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数〉